

## 2 地理・歴史

<平成17年度版への改訂について>

平成16年3月に国立教育政策研究所教育課程研究センターより「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発」の「報告」が公表されたことや、各学校における先生方の実践研究の成果等により、次の点を新しく付け加えた。

- ・従来の单元ごとの評価規準と各授業時間毎の指導計画の部分に、新たに、「学習における具体的評価規準」を明示し、大単元の目標と評価規準が小单元及び授業のそれに結びつきやすくした。

上記の改正点は、以下の目次の、「世界史A」「日本史A」「地理A」のそれぞれとの項目に特に具体的に示した。

<目次>

### 1 指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き

各科目共通の説明 P 1 ~ 3

### 2 世界史A

指導と評価の年間計画の例 (第2学年用) P 4

評価規準を明確にした単元の指導計画例 P 5・6

学習指導案例 P 7・8

### 3 日本史A

指導と評価の年間計画例 (第2学年用) P 9

評価規準を明確にした単元の指導計画例 P 10・11

学習指導案例 P 12・13

### 4 地理A

指導と評価の年間計画例 (第2学年用) P 14

評価規準を明確にした単元の指導計画例 P 15・16

学習指導案例 P 16・17

### 5 世界史B

指導と評価の年間計画例 (第2・3学年用) P 18・19

評価規準を含んだ指導と評価の計画例 P 20~22

学習指導案例 P 22・23

### 6 日本史B

指導と評価の年間計画例 (第2・3学年用) P 24・25

評価規準を含んだ指導と評価の計画例 P 26~28

学習指導案例 P 29

### 7 地理B

指導と評価の年間計画例 (第2学年用) P 30

評価規準を含んだ指導と評価の計画例 P 31・32

学習指導案例 P 33~35

# 1 指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き

## 1 「指導と評価の年間計画」について

P 4以降の各科目において例示した年間計画は、学習指導要領に示された「目標に準拠した評価」の実施を前提に、生徒の学習活動に対するより適正な評価と、学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成したもので、次の特色がある。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、授業内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まったが、この計画は、各授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイントも含めて記述している。

評価の方法を記述し、評価から評定への道筋が明確でありかつ説得力をもつように記述している。

内容的には、下記の「評価規準を含んだ指導と評価の計画（単元ごとの指導と評価の計画）」の全単元について、その概要を記述したものであり、その意味では、「指導と評価の年間計画の概要」を示したものである。

## 2 「評価規準を含んだ指導と評価の計画」について

P 5以降、各科目について、学習指導要領に基づく「評価規準を含んだ指導と評価の計画」を示した。これは、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の特色をもつ。

各科目ごとに、科目全体の「評価の観点及び趣旨」を示した。

各科目ごとに、それぞれ1ないし2・3の単元について、「単元ごとの評価規準」及び単元の「各授業時間ごとの主な内容」を示した。

各授業時間ごとの主な内容には、「主な学習内容」と「主な学習活動・評価の観点」及び「評価の方法・指導」を示した。

「主な学習活動・評価の観点」は、上記の「指導と評価の年間計画」の「主な学習活動（指導内容）と評価のポイント」に反映されていなければならない。

「主な学習活動・評価の観点」は、上記の「単元ごとの評価規準」の4観点を具体化したものでなければならない。

単元ごとの評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
A	B	C	D

各授業時間ごとの主な内容（単元ごとの指導と評価の計画、単元指導計画）

1	項目名 (授業名)	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1 時間 目		・学習内容の主な項目を記載	・上記Aの具体的な内容【関】 ・上記Bの具体的な内容【思】 評価の観点は次のように略記 【関心・意欲・態度】 = 【関】 【思考・判断】 = 【思】 【技能・表現】 = 【技】 【知識・理解】 = 【知】	・評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載
第2 時			・上記Cの具体的な内容【技】 ・上記Dの具体的な内容【知】	・評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載

### 3 「評価規準の作成の手引き」

評価規準については、次の内容構成で作成する。

評価規準の説明の詳細については、本資料「公民」編のP16～P17を参照のこと。  
 以下に記述されている、「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発」は、「評価規準、評価方法等の研究開発を行い参考となる指針を示すことにより、目標に準拠した評価の客観性を、信頼性を高める」ために、平成14年度から、文部科学省が研究指定校において行った研究の成果であり、平成16年3月に報告が出された。国立教育政策研究所の次のURLからダウンロードすることができる。

国立教育政策研究所「評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」のURL  
[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/kou-sankousiryuu/html/index\\_h.htm](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/kou-sankousiryuu/html/index_h.htm)

- 1科目の目標 …学習指導要領に示す当該科目の目標
- 2科目の評価の観点及びその趣旨  
 …新学習指導要領及び指導要録改善通知に示された当該教科の評価の観点及びその趣旨をもとに作成  
 具体的には、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」に記載されたもの

- 1大項目ごとの目標 …学習指導要領の「内容」の(1)～(?)の大項目ごとの目標
- 2大項目ごとの評価規準  
 …学習指導要領の「内容」の(1)～(?)の大項目ごとの評価規準。  
 「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発（中間整理）」に記載されたもの

留意点…各項目・単元の構成によっては、またはは省略する場合もある

- 1内容のまとまりごとの目標  
 …学習指導要領の内容のまとまりごとの目標
- 2内容のまとまりごとの評価規準  
 …内容のまとまりごとに4観点別に示した評価規準  
 「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について」に記載されたもの

- 1単元の目標 …実際の使用教科書等にもとづいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標  
 学習指導要領の項目ごとのねらいを基本に記載

- 2単元の評価規準  
 …単元ごとに4観点別に示した評価規準  
 「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの  
 「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について」に「内容のまとまりごと」の「評価規準の具体例」として記載されたものを基本に記載

- 各授業時間ごとの具体的評価規準と方法  
 …各授業時間ごとに、単元ごとの評価規準に基づく具体的な評価規準とその方法を示したもの

留意点… 1 「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」に記載された「内容のまとまりごと」の「まとまり」は、各科目によって表記の方法が若干異なる。以下の表のとおりである。

世界史A、世界史B	学習指導要領の「内容」の(1)ア、イ……の各中項目ごと
日本史A、日本史B	学習指導要領の「内容」の(1)(2)(3)……の各大項目ごと
地理A	学習指導要領の「内容」の(1)ア、イ……の各中項目ごと。但し、内容の(2)についてはアの(ア)(イ)……などの小項目ごと
地理B	学習指導要領の「内容」の(1)ア、イ……の各中項目ごと

2 「内容のまとまり」はあくまで学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく単元とは一致していない。次ページに＜参考資料＞として、その一つの例を示した。

<参考資料> 「新学習指導要領」と「教科書」の構成（内容の順序等）の不一致の例

学習指導要領の項目と、使用する教科書等に基づいて実施する授業の単元とは、どの会社の教科書を用いる場合でも、ある程度の不一致が生じる。

「指導と評価の年間計画」は「目的に準拠した評価規準」を示し、かつ当然であるが現実の授業の進行の元となるものでなければならない。

したがって、計画の構成及び記載の方法については各学校で工夫が必要である。

以下は、「日本史A」の場合の例である。

学習指導要領の内容（項目）		教科書項目（社版日本史A）	
(1)歴史と生活		<歴史と生活>	
(2)近代日本の形成と19世紀の世界	ア国際環境の変化と幕藩体制	序章 近代の前提	
		1 維新以前の日本	
		2 近代の萌芽	
	イ明治維新と近代国家の形成	3 対外関係の変化	
		第1章 開国と維新	
		1 東アジア国際環境の変化と開国	
		2 政治秩序の崩壊	
		3 明治維新と革新政策	
	ウ国際関係の推移と近代産業の成立	4 対外関係の変革と内乱の終結	
		第2章 近代国家の形成と発展	
		1 立憲政治をめざして	
		2 憲法の制定と議会の開設	
3 東アジアの国際環境と条約改正問題			
4 清国との戦い			
5 藩閥・政党の対立と協力			
6 ロシアとの戦い			
7 日露戦後の国際関係と日本			
第3章 産業化の推進と国民生活の変化			
1 産業革命の進展			
(3)近代日本の歩みと国際関係	ア政党政治の展開と大衆文化の形成	2 資本主義の確立とその特色	
		3 社会問題の発生	
		4 国民文化の形成	
	イ近代産業の発展と国民生活	5 国民生活の変化	
		ウ两大戦をめぐる国際情勢と日本	第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー
			1 第一次世界大戦と日本の外交
	2 デモクラシーの高まりと政党		
	3 国際協調と軍縮の進展		
	4 政党政治の時代		
	5 大戦中から戦後の経済と社会		
	ア・イ・ウの内容は教科書の章ごとの内容としては区分できない	6 都市化と大衆文化	
		第5章 第二次世界大戦と日本	
1 昭和恐慌			
2 協調外交のゆきづまり			
3 満州事変から国際的孤立へ			
4 軍部の政治的台頭			
5 中国との戦い			
6 第二次世界大戦と世界新秩序			
7 太平洋戦争			
(4)第二次世界大戦後の日本と世界	ア戦後政治の動向と国際社会	8 日本の敗北	
		第6章 占領下の日本	
		1 占領政策の展開	
		2 戦後民主主義の定着	
	イ経済の発展と国民生活	3 政治・経済の再建	
		4 独立の回復	
		第7章 日本の自立と経済成長	
		1 55年体制の成立	
	ウ現代の日本と世界	2 安保体制下の日本	
		3 高度経済成長の光と影	
		4 経済大国	
		第8章 現代世界と日本	
1 冷戦の終り			
2 国内政治の再編成			
3 アジア・太平洋と日本			

## 2 世界史 A

### 指導と評価の年間計画例

(第2学年用)

目標	近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域世界の特質と地域と地域の結びつきの深まりが理解できるよう、各章のはじめには地図を利用して各地域の関連を概観する。</li> <li>・実物・体験・写真・動画などをより多く活用して関心を高めるとともに、思考力や理解力を深める。</li> <li>・イラク戦争やその後の問題など現在起こりつつある事件と世界の歴史を結びつけ、関心と課題意識を高めることができるよう、適宜ニュース解説を行って学習内容との関連を説明し、因果関係などについても思考する。</li> <li>・世界の歴史が我が国との関連で理解できるよう、世界的な事件と我が国との関連については、必ずテーマを設定して、わかりやすく取り扱う。</li> <li>・世界史の知識をもとに人類の課題を多角的に考察できるよう、授業ごとに思考力・判断力を活用できる発問を設定する。</li> <li>・諸資料から適切な情報を選択し、歴史的事象を追及する方法を身につけさせるため、表・資料・写真などを通して考察し、自分の考えを表現できるような場面を多く設定する。</li> <li>・人類の課題を多角的に考察できるよう、すべての単元を学習した時点で、第二次世界大戦後に発生した出来事について、関心の深い課題を各自に設定させ、課題追究学習を実施する。</li> </ul>

月	単元名	使用教科書項目(山川出版要説世界史A)	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4月	序章 文明のふりこり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の出現</li> <li>・道具と文化</li> <li>・農耕牧畜の始まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の出現の過程を理解する。</li> <li>・石器作りを体験し、人類の進化の過程を理解する。</li> <li>・農耕牧畜と余剰の発生の意味について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート確認</li> <li>・作品提出</li> </ul>
5月	第1章 諸地域世界の形成と交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国史の古典文明</li> <li>・東アジア世界の形成</li> <li>・東アジアと日本</li> <li>・南・東南アジア世界</li> <li>・西アジア世界</li> <li>・イスラーム世界の成立と発展</li> <li>・まとめと小テスト</li> <li>・前期中間考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジアの風土と諸民族・漢字文化・儒教・中国を中心とする国際体制などについて理解するとともに、日本を含む東アジア世界の特質を把握する。</li> <li>・南アジアの風土・諸民族・宗教などに触れ、南アジアの特質を理解する。</li> <li>・西アジアの風土と諸民族、イスラームの成立と拡大に触れ、イスラーム世界の特質を理解する。</li> <li>・ヨーロッパの風土諸民族、ギリシア・ローマ文明の伝統やキリスト教の成立と発展に触れ、ヨーロッパ世界の特質を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント確認</li> <li>・ノート確認</li> <li>・小テスト</li> <li>・行動観察</li> <li>・授業評価と自己評価</li> </ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト返却・授業評価</li> <li>・古代ギリシア、ローマ帝国</li> <li>・キリスト教の発展</li> <li>・中世のヨーロッパ</li> <li>・地中海世界世界の接触と交流</li> <li>・内陸世界の接触と交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イタリア商人とムスリム商人の活動が結びつき、地中海ネットワークが成立したことを理解させる。</li> <li>・内陸アジアの騎馬遊牧民、オアシス都市の活動を中心に、陸のネットワークが成長し、ユーラシアが一体化されたことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント確認</li> </ul>
7月	第2章 一体化に向かう世界( )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルネサンスと宗教改革</li> <li>・大航海時代とアメリカ大陸</li> <li>・近代主権国家の成立</li> <li>・オランダの独立と繁栄</li> <li>・イギリスの覇権と世界の諸地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ世界の拡大と宗教改革について理解し、現代の欧米中心的世界観形成の端緒となる時代とその諸相を認識する。</li> <li>・近代主権国家の展開と革命や植民地戦争について理解する。</li> <li>・近代主権国家の盛衰の鍵を握った物産の存在に気づくとともに、その交易が世界の諸地域に与えた影響について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント確認</li> <li>・行動観察</li> </ul>
8月	第3章 一体化に向かう世界( )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命</li> <li>・アメリカ独立革命</li> <li>・フランス革命とナポレオン</li> <li>・ウィーン体制とその動揺</li> <li>・四十八年革命とその影響</li> <li>・自由主義国民主義の進展</li> <li>・アメリカ大陸の動向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命の内容と意義を理解し、ヨーロッパ世界の膨張が本格化する要因を考察する。</li> <li>・アメリカ独立革命・フランス革命・ナポレオンの時代の理解を通して、封建的社会から近代国家への変化、合理主義・自由主義思想の形成などについて理解する。</li> <li>・アメリカ合衆国の発展が、先住民・黒人・移民問題などを内包しつつ進められたことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント確認</li> <li>・行動観察</li> <li>・ノート確認</li> </ul>
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀欧米の文化、国際化</li> <li>・西アジア、南インド、東南アジア諸国の動向</li> <li>・アヘン戦争とアロー戦争</li> <li>・太平天国の興亡・洋務運動</li> <li>・日本の開国と日清戦争</li> <li>・前期期末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの帝国の文化と欧米勢力との対立を理解する。</li> <li>・アジア地域の植民地化や従属化の過程で生じた抵抗運動やその挫折、伝統文化の変容などについて理解するとともに、日本がどのように対応したかについて比較・考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント確認</li> <li>・行動観察</li> <li>・小テスト</li> <li>・授業評価と自己評価</li> </ul>
10月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト返却・授業評価</li> <li>・帝国主義と列国の内情</li> <li>・列強のアフリカ・太平洋分割</li> <li>・中国利権争奪・変法運動と義和団事件</li> <li>・日露戦争と韓国併合</li> <li>・アジアの民族運動、辛亥革命</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独占資本主義の時代の諸相について理解する。</li> <li>・20世紀初頭の欧米諸国による「世界分割」の様相を理解する。</li> <li>・アジア・アフリカの諸民族及びヨーロッパ内の少数民族の動向に注目し、20世紀の時代が、民族自立の時代となることに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント確認</li> <li>・行動観察</li> <li>・プリント確認</li> <li>・行動観察</li> </ul>
11月	第4章 20世紀の世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球世界の成立</li> <li>・第一次大戦</li> <li>・ロシア革命とソ連の成立</li> <li>・ヴェルサイユ体制の成立</li> <li>・アメリカ合衆国の繁栄</li> <li>・西アジア・インドの民族運動</li> <li>・戦後の朝鮮・中国</li> <li>・後期中間考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20世紀初頭のアメリカ文化が、この世紀の文化のパターンの開始であったことを理解する。</li> <li>・第一次大戦の原因・性格・それがもたらした変化について理解する。</li> <li>・ヴェルサイユ・ワシントン両体制とアジア諸国の民族運動の関係を考察する。</li> <li>・世界恐慌が戦間期の国際秩序に危機をもたらし、新たな国際対立を生み出したことを理解する。</li> <li>・ドイツのナチズムなどでの全体主義台頭の背景を大衆社会化現象と結びつけて考察する。</li> <li>・両大戦の原因を理解し、国家間の利害に基づく対立と国際紛争調停の可能性について考察する。</li> <li>・第一次大戦後の日本の動向を世界の動きと照応させながら把握する。</li> <li>・第二次世界大戦が未曾有の惨禍をもたらしたことを理解し、20世紀が戦争と虐殺の世紀といわれる所以を考察する。</li> <li>・映像資料を用いて具体的なイメージを抱きながら事象を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント確認</li> <li>・行動観察</li> <li>・小テスト</li> <li>・ノート確認</li> <li>・授業評価と自己評価</li> </ul>
12月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト返却・授業評価</li> <li>・世界恐慌とアメリカ合衆国</li> <li>・ドイツのナチズム</li> <li>・第一次大戦後の日本</li> <li>・満州事変と日中戦争</li> <li>・第二次大戦の開始</li> <li>・太平洋戦争</li> <li>・第二次大戦の終結</li> <li>・国際連合の発足</li> <li>・米ソ両陣営の対立</li> <li>・中華人民共和国の成立・発展</li> <li>・インドシナ、ベトナム戦争</li> <li>・アジア・アフリカの動向</li> <li>・冷戦構造の変容</li> <li>・アメリカ合衆国・西欧の動向</li> <li>・イスラーム世界の動向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後の冷戦構造の形成と、冷戦時代の対立構造を、「ベルリンの壁」・「キューバ危機」・「ベトナム戦争」を中心に理解し、イデオロギーの対立とは何かを考察する。</li> <li>・第3世界の形成や動きを理解する。</li> <li>・ソ連型社会主義の崩壊についてその理由を考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント確認</li> <li>・ノート確認</li> </ul>
1月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦構造の変容</li> <li>・アメリカ合衆国・西欧の動向</li> <li>・イスラーム世界の動向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦崩壊後の世界の動向を考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント確認</li> </ul>
2月	終章 現代の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の諸課題に関する課題 追究学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒各自が第二次世界大戦後に発生した出来事について、テーマを設定し、課題追究学習を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・作品提出</li> </ul>
3月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界史Aの授業を終えて</li> <li>・後期末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界史Aの学習の意味は何であったかを振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価</li> </ul>
		合計時間数	70	

# 世界史 A

## 評価規準を明確にした単元の指導計画例

### 1 科目の目標 「学習指導要領」の科目の目標と同一

近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

### 2 科目全体の評価の観点及びその趣旨

「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」に記載されたもの

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	近現代史を中心とする世界の歴史について諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事項を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

### 3 単元 「一体化に向かう世界（1）－世界商業の展開」の目標と評価規準

#### (ア) 大単元「一体化に向かう世界（1）」の目標

大航海時代以降の世界の一体化及び世界商業の進展の過程を理解するとともに、世界の諸地域にどのような影響が及んだのかについて考察できる。また、世界の一体化に重要な役割を果たした物産と世界商業の覇権を握った国の関係を考察できる。

#### (イ) 大単元および小単元ごとの評価規準と学習における具体的評価規準

	大単元「一体化に向かう世界(1)の評価規準	小単元「世界商業の展開」の評価規準	学習活動における具体的評価規準
関心・意欲・態度	・16世紀以降のヨーロッパを主導とする世界商業の進展と世界の一体化の動きに対する関心と課題意識を高め、多様な学習方法を通して意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に貢献しようとしている。	・大航海時代以降の世界の一体化と世界商業の進展に対する関心を高めるとともに、現代の国家・地域間に存在する課題を追究しようとしている。 ・世界商業の進展を左右した身近な物産に関心を高めるとともに、それが果たした歴史的な役割について意欲的に追究している。	世界の一体化の過程や日本への影響について追究しようとしている。身近な物産が世界の歴史を動かす原動力になったことに気づくとともに、どのような役割を果たしたのかについて追究しようとしている。
思考・判断	・16世紀以降のヨーロッパを主導とする世界商業の進展と世界の一体化の動きについて課題を見だし、アジア・アフリカあるいはアメリカ大陸などが受けた影響に着目しながら多面的・多角的に考察し、今日の国際社会のあり方と関連付けて判断している。	・大航海時代以降の世界の一体化や世界商業の進展が世界の諸地域に及ぼした影響を多面的に考察するとともに、現代の国家や地域が抱える課題やその解決の方策について判断している。 ・世界商業を左右した重要な物産が世界の各地域をどのように結びつけていたのか、また、日本がどのような影響を受けたかについて考察している。	江戸時代の日本の貿易相手国にオランダが選ばれた理由を、オランダの独立とその後の繁栄と結びつけて考察している。 世界商業の展開において見られた隷属関係が今日にも見られないかについて考察している。
資料活用の技能・表現	・16世紀以降のヨーロッパを主導とする世界商業の進展と世界の一体化の動きに関する有用な情報を選択して活用するとともに、考察を深め、その結果を適切に表現している。あわせて歴史的事象を追究する方法を身に付けている。	・大航海時代以降の世界の一体化や世界商業の進展にともなって世界各地で生じた変化や影響に関する統計資料や文献などをもとに、有用な情報を選択したり活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、考察した結果を適切に表現している。	より多くの資料をもとにイギリスの覇権確立が世界の諸地域にどのような影響を与えたかを読み取っている。
知識・理解	・16世紀以降のヨーロッパを主導とする世界商業の進展と世界の一体化が進んだ過程とそれに伴う世界の諸地域の変容を理解する。	・大航海時代以降の世界の一体化と世界商業の進展の過程及び影響について理解しその知識を身に付けている。 ・世界商業を左右した重要な物産をめぐり世界の各地域の結びつきや、日本がどのような影響を受けたかについて理解しその知識を身に付けている。	オランダの独立と繁栄の背景や経過についてプリントに記入している。大西洋の三角貿易がイギリスに莫大な利益をもたらす、植民地抗争の勝利や産業革命の原動力になったことを理解している。

## 世界史 A

本単元は、大単元「一体化に向かう世界(1)」の中の小単元2「世界商業の展開」である。

小単元の指導計画は次ページに掲載。

この大単元の構成は次のとおりである。

大単元「一体化に向かう世界(1)」

小単元1「大航海時代と17・18世紀のヨーロッパ」

- ・ルネサンスと宗教改革
- ・大航海時代とアメリカ大陸
- ・近代主権国家の成立

小単元2「世界商業の展開」

- ・オランダの独立と繁栄
- ・イギリスの覇権と世界の諸地域

### 4 小単元「世界商業の展開」の指導と評価の計画例(各時間ごとの指導と評価の計画)

(特に記録を残す評価)

1 オランダの独立と繁栄			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
1 時 間 目	オランダ風土・生活、日本との関係の確認	オランダと日本の関係に気づくとともに、江戸時代(鎖国中)の貿易相手国としてオランダが選ばれた理由を考え、世界の一体化と日本の歴史の結びつきに関心を高める。【関】	意見発表、行動観察
	ネーデルラント独立戦争について	スペイン本国のカトリック教の強制や本国中心の重商主義政策への反発が独立戦争の原因であったことを理解する。【知】	意見発表、行動観察
	オランダの繁栄について	オランダの世界商業・覇権確立について理解するとともに、その原動力が香辛料貿易の支配であったことに気付く。【知】	意見発表、行動観察
	オランダと日本との関係	レンブラント、グロチウスなどの活動を理解し、オランダの繁栄期が江戸時代の鎖国完成の時期に重なることに気付く。 江戸時代(鎖国中)の貿易相手国としてオランダが選ばれた理由を考察しまとめる。【思】	意見発表、行動観察 プリント記入、提出
2 イギリスの覇権と世界の諸地域			
2 時 間 目	紅茶の基礎知識	紅茶に関する基礎知識を確認し、紅茶に関係する歴史について関心を高める。【関】	意見発表、行動観察
	大西洋の三角貿易について	イギリスは紅茶に必要なものを大西洋の三角貿易や中国・インドとの貿易によって手に入れていたことを理解する。【知】	意見発表、行動観察
	奴隷貿易について	黒人奴隷が商品として扱われ、深刻な差別が存在したことに気付く。	意見発表、行動観察
	イギリスの覇権について	紅茶の消費は世界にどのような影響を与えたかを資料から読み取る。【技】 イギリスの紅茶の消費が世界の一体化を進展させたこと、また、イギリスの覇権確立や産業革命に結びついたことを理解する。【知】 今日の国際関係に同様な関係がないかについて考察する。【思】	プリント記入・提出 意見発表、行動観察 プリント記入・提出

# 世界史 A

## 学習指導案例

教科(科目)	地理歴史科 (世界史 A)	単 元	第 2 章一体化に向かう世界(1)	2 世界商業の展開
本時主題	イギリスの覇権と世界の諸地域			2 時間目 / 単元 2 時間中
本時の目標	<p>(1) 身近な事例である紅茶に着目することによって関心を高め、それに関連する歴史的事象について自ら追究しようとする。 【関】</p> <p>(2) イギリスの植民地争奪戦争での勝利や産業革命が、アフリカや中国などの人々の犠牲や過酷な労働に支えられていたことに気付くとともに、今日において類似した問題が存在しないか考察できる。 【思】</p> <p>(3) 大西洋の三角貿易がイギリスに莫大な利益をもたらし、植民地抗争の勝利や産業革命の原動力になったことを理解する。 【知】</p> <p>(4) 奴隷貿易数やアフリカの人口停滞のグラフなどからイギリスの紅茶消費が世界の各地にどのような影響を与えたのかを的確に読み取り、わかりやすくまとめる。 【技】</p>			
指導の内容・ねらい	学 習 活 動 (S : 生徒発言・活動、T : 教師の対応・まとめ)		指導上の留意点・観点別評価	
・紅茶に関心をもつ。  (5分)	<p>Q 紅茶を飲む習慣がいつごろどこで始まったのか、紅茶を飲む代表的な国などを考える。</p> <p>S 1 : 18 世紀ごろ S 2 : 代表的な国はイギリス</p>		<p>・紅茶を飲む。</p> <p>・授業への集中力を切らせないようにする。</p>	
・紅茶の消費はどんな出来事と関係しているのか。	<p>Q 紅茶の消費が増えた時期にイギリスでは何がおきていたのだろうか。また、紅茶の消費とその出来事とは何か関係があるのだろうか。</p> <p>S 1 : イギリス産業革命の進展の時期と重なる。</p>		<p>・グラフから紅茶の消費の増えた時期と産業革命の時期が重なることに気づかせる。</p> <p>・仮説を立てさせる。 【関】</p> <p>・生徒の仮説に対する解答は明確にせず、課題意識を持たせる。</p>	
・イギリスは紅茶を飲むのに必要なものをどこから入手していたか。	<p>Q 紅茶を飲むときに必要なものは何か？イギリスはどこからそれを手に入れていたのか。</p> <p>S 1 : 必要なものは茶、陶磁器、砂糖など S 2 : 茶、陶磁器は中国から輸入した。 T : イギリスは紅茶を飲むために必要なものをほとんどを輸入に頼っており、茶・陶磁器は中国から輸入していた。</p>		<p>・イギリスの紅茶消費が外国からの輸入によって支えられていたことに気付かせる。</p>	
・大西洋の三角貿易について	<p>Q 砂糖は何から作られたのか。</p> <p>S 1 : サトウキビ T : 砂糖生産の概要を説明。 砂糖が当時大変貴重なものであり、砂糖の支配は世界商業の支配に繋がる。</p> <p>Q 砂糖はどこで生産されていたのだろうか。</p> <p>A 1 : 中南米地域。 T : 砂糖生産がカリブ海地域で行われていた。</p> <p>Q グラフ資料 からどんなことが読み取れるか。</p> <p>S 1 : 砂糖生産の高まりとともに黒人の人口が増えている。 S 2 : 黒人が砂糖生産に従事した。 S 3 : アメリカ大陸にいなかった黒人が現在アメリカ大陸にいることと関係している。 T : 大西洋三角貿易が行われ、カリブ海地域の砂糖生産がアフリカの黒人奴隷によって支えられていた。</p>		<p>・サトウキビを食べさせ、関心を高める。</p> <p>・資料から読み取らせる。</p> <p>・資料から読み取らせる。</p>	
・奴隷貿易の実態について	<p>Q 奴隷貿易の実態はどのようなものだったのだろうか。</p> <p>T 1 : 奴隷船の様子は？ S 1 : 船内にぎっしりと積まれる、非衛生的な状況。</p>		<p>・資料から読み取らせる。</p>	

世界史 A

<p>・イギリスの紅茶の消費が世界の各地に与えた影響について</p>	<p>S 1 : 手枷・足枷でつながれる。 T 2 : なぜこんな積み方をしたのか？ S 2 : 少しでも多くの黒人を運ぼうとした。 T 3 : 「黒人の中にも人間らしい心が見られることは驚くばかりである」とはどんな意味？ S 3 : 白人が黒人を人間として考えていない差別意識の表れ。 T 4 : 「育てるより買う方が安い」とはどんな意味？ S 4 : 砂糖の生産労働がとても厳しいものだった。</p> <p><b>Q</b> イギリスの紅茶の消費は世界各地（中国やアフリカ）にどのような影響を与えたのだろう。</p> <p>S 1 : 中国へのアヘン流入の増大、アヘン戦争 S 2 : アフリカ大陸の労働人口の減少・停滞、発展の障害 T : イギリスの紅茶の消費は中国や西アフリカ地域などの犠牲の上に成り立っていた。</p> <p><b>Q</b> イギリスの紅茶の消費が増えているところイギリスでは何が起こっていたのだろう。仮説を検証しよう。</p> <p>A 1 : 貿易であげた大きな利益を背景に、国際社会のリーダーとなった。 T : 紅茶をめぐる貿易の利益が植民地争奪戦争での勝利や、産業革命の資本の蓄積に結びついた。</p>	<p>・資料を手掛かりにしてどのような影響があったかをまとめさせる。 【技】</p> <p>評価の方法 プリント提出</p> <p>・前時に学んだオランダの繁栄と香料貿易の関係を活用し、まとめさせる。 【知】</p>
<p>・今日の問題の考察</p> <p>(45分)</p>	<p><b>Q</b> 現在の国際社会にこのような関係は存在しないだろうか、もしあったとすると、どのような考え方が大切か考えてみよう。</p> <p>S 1 : 発展途上国と先進国の関係に似ている。 S 2 : 日本の豊かな生活もどこかの国の人々の苦労の上に成り立っているのでは？ T : 現代の先進国(日本など)の物質的に豊かな生活が、発展途上国の人々の苦労や犠牲のうえに成り立っていないかなど例を挙げて考える。</p>	<p>現在の国際関係の中によく似た問題がないかまとめさせる。 【思】</p> <p>評価の方法 意見発表、プリント提出</p>

< 指導上のポイント、考察 >

- (1) 普段何気なく親しんでいる「モノ」を題材にすること、及びその「モノ」をめぐって世界の歴史が展開されたことに気づかせることによって関心を高めるとともに、そのイメージやインパクトを利用して思考力の高まりや基本的事項の定着を図った。また、紅茶が有していた当時のイメージと、それを支えた奴隷貿易の悲惨さとを際立たせることによって、世界商業の展開が世界に支配・被支配関係を明確にしたことや、その実態をより深く考察できるように展開した。ただ、紅茶の試飲やサトウキビの試食では時間的制約もあり、生徒の実態に応じて提示の仕方を工夫する必要がある。
- (2) 「紅茶の消費が世界の諸地域にどのような影響を与えたのか」については、生徒各自が適切な資料を選び取り、考えさせるようにしたが、生徒の実態によっては教師による指示や例示が必要な場合もある。また、資料提示についてもより効果的に工夫する必要がある。
- (3) 現在の国際関係を考えさせたのは、今回の授業内容を単なる歴史上の問題として終わらせるのではなく、今日の問題を見い出すとともに、より良い解決の仕方を考えることができるようにするためである。できる限り時間をかけ、意見交換ができるようにする必要がある。
- (4) 評価の対象である資料読み取り結果や考察内容をまとめさせるにあたっては、どの段階のものを評価の対象とするかを見極めが難しく、工夫が必要である。

